

改正

有職小説

73

6309

2



73  
6309  
春

有識小說卷中

中

去五味均平蔵

官爵

官位職カシヨク 代醉編ダイサイヘン云唐制テイセイ有勲リクン有官カク有階カイ

有爵ニヤク々以定尊卑メソソヘヒラ官以分職チ勞ムラ階以叙シキテ

勞勲ラクン以叙功シキテ云云又云如公侯伯則謂之

爵カク左右柱國サウジウクニョク正治正卿テイジテイケイ及資治ヒ尹ヒ之類則

謂之勲トクシユ特進トクシユ光祿大夫クワクダフ以及兼德ラヨビ郎

之類則謂之階宗人令ソウジンレイ尚書侍郎シヤウシヤウシヨウ之類

有識小説中



則謂之官云云儀禮注云爵者位次高  
下之称也。自虎通云爵者祿也所以盡  
人材也云云凡官位職ノ二三ハ帝道ノ樞  
機。天下ノ權衡也。尤其人ヲ選テ授ラル  
ト云リ。神皇正統紀ニモ君ノ猥ニ授ルラ  
謬舉トシ。臣ノ監ニ受ルラ尸祿トス謬  
舉ト尸祿トハ。國家ノヤブル端。王業  
ノ久レカラザル基也云云

百官 朝廷ニ置ル、處ノ諸官ノ通稱也。員

數百アルノ所以ニアラス。繁多ノ謂ナリ。

古事記ニ百官人ヲモ、ノツカサヒト、訓ス

撰関 帝道輔佐ノ重職。五撰家中。大

臣タル人器量ニ依テ。其選ニ當ラル、更

トソ。撰政関白ト。称呼ハ異也トイヘドモ。

職掌ハ全シ。但し関白ハ常ニ置ル。撰政ハ

幼王女帝ノ御時。是ヲ居ラル。天子ニ

代リ奉テ、政務ノ更ニ預レル者也。幼王十六歳ノ後ハ、拱政ヲ辭シテ、関白ニ改補セラル、ノ例也。

執政 博陸、拱録、皆以テ拱政ヲ斥リ。執政、殿下ハ関白ヲ云。殿中、納言。殿中將ナド、申侍ルモ、関白ノ子息ヲ云トソ。但中華ニテハ、皇太子、諸王ヲ、殿下ト稱スト見エタリ。凡異域ノ宰相、本朝ノ執柄、武

家ノ執權名異ニシテ職均シ。皆是國家ノ柄ヲ執ル棟梁ノ臣也。

則闕官 太政大臣ヲ斥テ云。官ノ名ニハ非ス。當官ハ人臣先途ノ至極ニシテ。天地ニ則テ天下ノ法ヲ立。陰陽ニ順テ。政ヲ正シ。國土ノ制令ヲ修ス。棟梁ノ職掌アレバ。且ハ尤竜ノ悔ヲ恐レ。且ハ其任ニ勝ザラン更ヲ憚リ。家臣ハ是ヲ固辭シ

王者モ又是ヲ止メラシ。則闕ノ美也。ト  
 封号ホウガウ 封八國郡ノ守護ニ補セラレ。其土ヲ  
 領シテ。制法ヲ正スノ美也。往古大政大臣  
 當官ニテ薨セル人ハ。一國ノ侯ニ封セラレ。  
 公ノ謚号有レ例故。中古以來。執終ノ以  
 前ニ。必當官ヲ辭スル古夏ニ成テ。公ノ謚モ  
 断絶ス。淡海公ニ起リ。仁義公ニ終ト云  
 所謂 不比等ノヒヒク 近江近江 淡海公  
 良房ヨシノブ 美濃美濃 基經モト  
 忠平信濃 實賴尾張 伊尹コレタ  
 兼通遠江 賴忠駿河 爲光  
 謙徳公謙徳公 相模相模 恒徳公恒徳公

越前 昭宣公 忠平 信濃 貞信公  
 三河 謙徳公 兼通 遠江 忠義公  
 三公 太政大臣。左右大臣ヲ云。前漢天文志云  
 三公六星。兩々而居。在人爲三公。在天爲  
 三台。云云。本朝ノ諺ニ。天子ヲ一人。太子ヲ  
 一人。関白ヲ一人。所相國ヲ一人。左府ヲ  
 一人。右府ヲ一人ト云。醍醐帝ノ御宇ヨリ

起レリトゾ

正一位 人臣ノ極位ナル故。中古以來。在世ノ

間ハ。多分是ヲ叙セラレズ。贈位ニテナリ

太織冠 正一位相當ノ冠ノ名也。往古ノ

制ナリ。天智帝。藤原鎌足公ニ授ラルト云

准后 准三后大臣ト云。又准宮共云リ。皇

太后宮。皇后宮。中宮。此三官ノ年給ニ

劣ス賜トノ義ナリ。隨分ノ御賞翫ヲ

以テ。授ラル、ノ官ナリ。普通ノ人ノ沙汰

ニアラス。邂逅ノ例也。故ニ禁門ヲモ。輦

車ニ乗テ出入スル者トソ。列位ノ時モ。官

方。親王家ナド對座云云

氏長者 王氏。源氏。藤氏。橘氏ノ家ニ限レ

リ。藤氏ニ於テハ。拱関タル人。則氏長者

タリ。源氏ニテハ。禁學。淳和。兩院ノ別當

職ニ補セラル、人。氏長者タリ。伏見院

朝ヨリ。久我家工累世傳續アリ。永徳三年正月。鹿苑院殿源義満公當職ニ補セラレレヨリ。將軍家へ御相續ノ度ニ

成レリ

内外辨叙位。除目。其外諸ノ節會ノ時兼明門ノ内ニテ。事ヲ辨シ務ル。一ノ大臣ヲ。内辨ト云。兼明門ノ外ニテ務ル。二ノ大臣ヲ外辨ト云。委ハ江次第ニ見

エタリ

是定叙位ノ時。橘氏ノ爵ノ度ヲ掌ル人ヲ云。橘家微ニ成テ。寛和ノ比中関白道隆。大納言タリシ時。宣旨ヲ蒙シテ以來。撰家ノ中ニテ。此職ヲ兼ラルト云。准大臣。内大臣ノ下。大納言ノ上ニ列ス。是ヲ儀同三司ト云。三司ハ三公ノ意ナリ。三公ノ儀ニ同等ノ美ナリ。帥大納言

伊周。飯京ノ後。寛弘二年。准大臣ニ任セラル。其時儀同三司ト。自稱セラレニ起レリ

散一位 准一位共云リ。大臣ニ任ゼスレテ。位ノミ一位ニ進ムヲ云。多ハ大納言タル人。叙セラル。ノ例ナリ。然レハ大納言ヲ辨スル夏トソ

傍三位 散三位共云リ。参議ヲ歴ズレテ。

三位ニ叙セラル。ヲ云

非参議 前官ノ公卿。無官ノ二位三位云

勲位 勲一等ハ正三位ノ下。從三位ノ上。勲

二等ハ。從三位ノ下。正四位上ノ上。勲三等

ハ。正四位下ノ下。從四位上ノ上。朝散等ハ

從四位下ノ下。正五位上ノ上。勲五等ハ。

正五位上ノ下。從五位上ノ上也。云云神皇

正統紀云。上古ニ勲功アレバトテ。官位ニ

百載ノ流中



進ム夏ハナカリキ。常ノ官位ノ上ニ勲位  
ト云品ヲ置テ。一等ヨリ十二等マデ  
アリ。無位ノ人ナレド。勲功高クテ。二等  
ニアガレバ。正三位ノ下。從三位ノ上ニ列  
ナルベシト見エタリ。又本位アル人。是ヲ  
兼タルモ有ヘシト云

權大納言 大中納言ニ限テ。權官ヲ正官  
トス。自餘ノ官ニ於テハ。正官ヨリ權官

ヲ輕レトス。

參議 是ヲ官ト謂ズシテ職ト云。異名ヲ

宰相ト云。本朝ノ故實也。但位署ノ時ハ

或ハ源參議。或ハ菅參議ナド、書。名ヲ

呼時ハ。或ハ平宰相。或ハ藤宰相ナド、

云リ。唐名ヲ相公ト号ス。野相公小野江

相公大江音ノナドノ類ナリ

公卿 月卿。卿上ナド、モ云。參議。三位以上

摠名ナリ。但公ハ撰セツ。関シ。三公。内大臣。儀同ナリ。卿ハ。大中納言。参議。三位以上。散位ナリ。参議ハ四位相當トイヘ共。公卿ノ列タリ。参議位署式ノ時ハ朝臣ト書リ是ヲ某朝臣ト云リ交ヲ受ヘシ

上達部カンダクメ 公卿ノ摠名ナリトイヘ共。大形ハ左。右太將。大中納言。三位中將。宰相中將。春官大夫。侍從等ヲ云トゾ。三位中將 大臣ノ息。又ハ孫ナトノ内ニテ任

叙ジセラル。公武共ニ規模アル夏ナリ。大理タイリ 換テビ非非違違使ノ別別當當ヲ云。参議以上ノ兼職ケンシヨクナリ

上卿キウケイ 天子仰出サレノ旨アル時。公卿ノ申ニテ一人。陣座チンザニテ。其夏ノ摠奉行シテ證據シヤクコニ立ヲ云。節會セチエノ内外辨ヒトニ等シ職事シヨクジ 辨官ベンカンニテ。藏人頭クワドントウヲ兼カチタル人ヲ云頭辨トウベン是也。規模キボアル重職チウシヨク也

頭中將 藏人頭ニテ中將ヲ兼タルヲ云。大  
納言ニテ。或ハ太宰帥。或ハ彈正尹ナド  
兼タル人ヲ。帥大納言。尹大納言ナド云  
カ如シ

藏人頭 貫首共云リ。是殿上人ノ上首  
タル故ノ名ナリ。山門ノ座主ヲ貫首

ト云ニ義全シ

参陣辨 中官。親王。將軍ナドノ宣下ノ時

當人ノ公卿。禁中ニテ陣ノ儀式ヲ行ル  
ナリ。其時夏ヲ掌ル辨官ヲ云

南曹辨 太學寮ノ東西ニ。管江兩家ノ  
曹司アリ。又南ニ南曹アリ。藤氏長  
者タル人ノ管領スル処ナリ。其辨官ヲ  
云。但春日。奥福寺。多武峯ナドノ用  
夏ヲ達スル迄ニテ。尤藤氏ノ人ノ兼職  
ナリ

京官 大政官。八省。彈正臺。廷尉。藏人。  
 六衛府。ナドヲ云。此内兵部。兵庫。隼人。  
 左右馬。廷尉。衛府。ナドノ如ク。弓。箭。ヲ  
 帶スル官ヲ武官ト云。九職。九寮。九司。  
 ナドヲ文官ト云。太宰府。按察使。鎮守  
 府。受領。ナドヲ。外官ト云。都。テ官ノ  
 次第。一京官。二文官。三武官。四外官ト云  
 殿上人 雲客共云リ。四位。五位。中。少將。侍。

從等ノ。何レモ昇殿スル人ノ通稱也。王  
 者ヲ日ニタトヘ。公卿ヲ月ニ比シ。殿上人  
 ヲ雲ニヨソヘタル也。又殿上人ノ字ヲウヘ  
 ノヲノコト訓ズ。搃テ諺ニ。モ、シキノ大官  
 人ト云ルハ。月卿雲客ノ夏ヲ斥リ。モ、  
 シキハ。文選ニ百寮ト書リ。禁中。百官ノ  
 座席ト云ノ也。又位署式ニ。朝臣。宿  
 祿。ナト書ハ。四位以下ノ人ノ故實也。印

変ヲ受ベシ

散位散位 四五位ノ無官ノ人。自稱自稱ノ辨ナリ。

官職ヲ散ジテ。位計位計トイヘル謙退ノ意ナ

リ。中中古以來。前官ノ公卿モ。位署位署式ノ時

ニ非非参議ト不書。散位ト載載ラル。堀川

院。和哥和哥御會御會ヨリノ例也ト云又六位

ノ人。散位ト書ハ。受領受領ノ外。掾掾ニ限ル

夏トソ

地下 四五位ニ叙ストイヘ共。累世昇殿累世昇殿ヲ

聽聽サレザル家アリ。是ヲ地下ノ諸大夫ト云

四位諸大夫 四位ハ既ニ殿上人ノ例ナリ。

其中ニイマダ昇殿ヲ聽聽サレザルヲ云

無官大夫 公卿ノ子息。童躰童躰ノ時ヨリ。五

位ナリ。故ニイマダ元服セサル人自稱自稱シテ

云。尔平敦盛ノ類是也

諸大夫 侍ノ叙爵スルヲ大夫ト云。諸大

百職小流中

夫ハ則五位ノ掄名ナリ。又五位以下ノ官ニ任シテ昇殿ヲ聽サレガル人ヲモ云リ。凡大夫ノ文字官ノ時ハダイブト濁テ訓ス。九職ニ限レリ。位ノ時ハダイフト清テ唱フ。五位ノ通稱ニ限レリ。八省。北寮以下大夫ナレ。然ルニ式部丞掃部助右近將監左衛門尉ナド六位相當ノ輩叙爵スル則バ式部大夫右近大夫

ナド、稱ス。是官位ヲ取合テ呼ノ義ナリ。又大夫ヲ判官共云リ。掄非違使尉計ハハウクハント呼。是又故實也。源義經此尉ニ任セラレシ故ニ九郎大夫判官ト云トゾ

武林

幕府 大樹幕下。皆以テ左右近衛大將ノ居所ヲ云。當官ハ朝廷武官ノ棟

糸トシテ。古今最重職ナリ。大納言是  
 ヲ羨ルヲ規模トス。然レハ大納言ト不  
 謂シテ。大將ト称ス。大臣是ヲ羨ル則  
 ハ。大將ト不謂シテ。大臣ト称スルノ  
 例ナリ。又参議ニテ大將ヲ羨ラレシ  
 先蹤。栄花物語。河海抄ナドニ見エタリ  
 柳營 將軍ノ居所ヲ斥テ云。前漢ノ周  
 亞夫。將軍ト成テ。長安ノ北。細柳ノ地

ニ營ヲ構シニ起レリ  
 殿中 營中。御所。御殿。皆以テ公方家  
 ノ居所ヲ云

將軍 神代ニテハ。經津玉命下総武甕槌香取  
 命常陸是ヲ盤觴トス。人代ニ到テハ。  
 神武帝ノ朝。道臣命ヲ始トス。崇神ノ  
 御宇。大彦命。武停河別。吉備津彦。丹  
 波道王命。此四臣ヲ以テ。葦夷我狄ヲ

平ラレン爲ニ。四方へ分遣サレシヨリ。將軍ノ  
 号起レリ。○征夷使ハ日本武尊。東夷ヲ  
 征シ給ノ時ニ始ム。○鎮守府ハ陸奥出  
 羽ノ守リタル人兼職也。○將軍ノ相當ハ  
 五位タリ。南朝。北畠。三位顯家ノ卿ヲ  
 鎮守府將軍ニ補セラレシ時。其位高シ  
 テ職卑ガ故ニ。相當ヲ思量有テ大ノ字  
 ヲ加ラル。是。大將軍ハ神華ニテモ大凡

三公ニ等キガ故也トソ。副將軍ハ將軍  
 ニ相次ノ重職也。賴朝卿ノ治世以來斷  
 絶云云

公方家 鹿苑院義滿公尊氏孫 天下ニ大

功アルヲ以テ。太政大臣。從一位ニ登庸執  
 柄家ニ准拠セララル。ニ付テ。是ヨリ將軍  
 家ヲ公方家ト云。永和四年室町ニ新  
 館ヲ構テ。居住アルニ依テ。京都將軍



家ヲ代々室町家共云リ。薨去ノ後、本  
 上天皇ノ尊号ヲ贈ラルトイへ共、持  
 固辨シテ復シ申サルト云々在世ノ時、武  
 家ノ品ヲ十一位ニ定ラル。所謂一族大名  
 守護外様評定衆供衆申次番方  
 國人奉行末男ナド也。武家直臣ノ  
 輩件ノ十一級ニ漏ル者ナレトソ  
 惣追捕使 諸國守護地頭ノ首ナリ

往古朝廷ヨリ。天下ノ政務有レ時ハ其國  
 毎ニ國司ヲ下サレ。成敗ヲ掌レメラル。  
 後、鳥羽院。右大將頼朝、卿ニ始テ諸國  
 惣追捕使ノ號ヲ賜レヨリ。四海アミ  
 子ク。武家ノ管領ト成レリ  
 節度使 節乃使共書リ。節ハ符節ノ  
 印ナリ。漢書注云、節以毛爲之。上下  
 相重取象。价節因以爲名。將命者持

之爲信云云朝敵退治ノ爲。指シ向スラル、  
大將ノ夏也。龍ノ御旗ヲド賜テ。萬  
民ヲレテ。私ナラザル疑ヲ避ラルノ  
所以ナリ。日本紀ニ。景行帝ノ日本武  
尊ニ斧鉞ヲ授ラレ。東征セシメラレ  
レ夏見エタリ。是本朝賜節ノ權ハ輿  
成ベシ。夏文類聚ニ云。自高宗永徽以  
後。都督帶任持節者謂之節度使

猶未名官。開元天審以後名官。唐百  
官志云節度使掌總軍旅中誅殺  
云云代醉編云符謂之節。尺謂之度  
節取其有限。度取其不差云云此義  
ヲ以テ唐ノ代節度使ノ号ヲ立タリ。  
元ハ孝經ニ制節謹度トアルニ起レ  
リトシ。猶事物紀原ニモ見エタリ  
追討 天子ノ仰ヲ蒙テ。將軍ノ出陣ノ云

征伐 仙洞ノ仰ヲ奉テ。將軍ノ出陣ヲ云  
進發 綸旨院宣ナド賜リ。節ヲ持シテ

遠國ノ凶徒退治ニ赴クヲ云

動座 禁將又ハ三公ナトノ出陣ヲ云

發向 將軍私ノ出陣ヲ云

著春長 將軍家御著用ノ甲冑ヲ云

調度掛 東鑑ニ出タリ。諸家ニ沙汰有

テ本説未詳。或ハ張弩懸ノ字共云リ。

凡將軍家出行ノ時ハ。不意ノ武備ト

シテ譽アル勇士ノ中。弓箭ヲ帶シテ

將軍家ノ傍ニ副行ヲ云リ。掛ルトイ

ヘハ一ノ肩ナトニ負荷スルニアラズ。手

シテ持度ナリトソ。猶口交源義家。深

夜ニ女ノ許。忍テ罷ラレシ時。安陪宗任

ニテ箭持シメ。只一人俱セラレシ。是ニ依

テ盜賊。難ヲ避ラレシ。是。宇治拾遺

二見エタリ。是モ古代ノ申緒ニコソ。又  
劔ノ役ヲ勤ヨリ。沓ヲ規模トス。本據  
東鑑ニ見タリ

上意。公方家仰ノ旨ヲ鈞命。命上  
意。御談ナド、云。何ニテモ下ヨリ申上  
ルヲ言上ト云。聞召ル、ヲ。台聽。台聞  
上聞ナド、云。御出ヲ出御。入給フヲ  
入御。出行ヲ。御成。取給フヲ還御。御面

見ヲ台顔。何ニテモ見給フヲ台覽。上覽  
御イタハリヲ。不例。違例。所勞ナド、云。  
諸侯以下。柳宮工參ルヲ。參勤。參府  
ナド云。出仕ヲ登城。御使ヲ上使ト  
云リ。此外濟々略之

御下文。公方家ヨリ御家人ニ。采地ヲ宛  
行ル、時又八成敗ナドノ美ニ付テ。賜ル  
處ノ判物ナリ。發端ニ下スノ一字アリ。

中央ノ傍ニ公方家ノ袖印ヲ押レ下ニ  
件ノ家人ノ官氏實名ヲ載其次ニ要  
用ノ旨趣ヲ書テ終ニ年号月日ヲ記  
スト云云當時断絶

御教書 上意ノ旨ヲ受テ管領ノ書

出ス文書ナリ實名ヲ省キ官受領ノ

下ニ花押アリ是又當時断絶

施行 時ノ威ナドアル者上意ノ旨ヲ受

テ。文書ニ認メ是ヲ管領ニ達ス管領  
是ヲ受テ御教書ニ副テ書出スヲ  
云。當時是又断絶

御内書 公方家直判ノ御書ヲ云

奉書 上意ノ赴ヲ受テ奉行人ノ書出

ス文書ヲ云

下知狀 公方家成敗ノ義ニ付テ黒印朱

印等ノ判物ヲ出サル時其要文ノ

外。内々ノ上意アル美ナドヲ。奉行人ノ  
奉テ書下ス文書ヲ云。故ニ文ノ終ニ。  
執達如件ナド、書ル、也

執權 執事共云リ。武家ノ宿老家長也。

京都將軍家ノ時。是ヲ管領職ト云

三職 武衛 斯波 細川 畠山ノ云。此三家

ヨリ交代ニ管領職ヲ勤ラル。將軍美詮  
ノ時。斯波高經。足利ノ門葉トシテ。器

量勝レタルヲ以テ。天下ヲ管領シ給ルヘ  
キ旨命セラレヨリ。執事ヲ管領トハ  
云トメ

四職 山名一色。京極。赤松ヲ云。三管領ノ  
家ニ續テ規模アル家ナリ

相伴衆 三家。四職。大名。守護ナドノ  
中ニテ。器量ノ人ヲ以テ定ラレシトメ

武林八公 千葉公。上総公。三浦公。狩野公。

秋田城、以富樫、以井伊、以大内、以ヲ云  
 ○源氏夕貞、卷ノ揚名、以東鑑ノ三、以十  
 ド、口決ノ羨也。師説ヲ受ヘシ。此外○  
 坂東、八平氏ハ、千葉上総。三浦土肥。秩父  
 大庭。梶原。長尾。鎮西九黨ハ、大友。秋  
 月。惟任。惟任。戸次。山澄。菊池。原田。松  
 浦。武藏七黨ハ、丹治。私市。兒玉。猪股  
 西野。横山。都築。鑊倉。八家ハ、千葉。小

山長沼。結城。佐竹。小田。宇都宮。那須。須  
 侍所別當。武家ノ重職也。頼朝卿ノ時、和田  
 義盛。是ニ補ス。司ハ梶原景時。厩別當  
 ヲ兼タリ。職事ハ藤原親能ト云。○  
 寺社奉行ハ頼家ノ時。建久五年。中原季  
 時ヲ始トストメ  
 所司代。東山殿。義政ノ時。京極大膳。大夫  
 佐々木持清ヲ侍所司ニ補セラレ。然兵

持清ハ江州ニ在テ。代トシテ多賀豊後守  
 中原高忠ヲ京都ニ置シム。是ヲ監賜トス  
 ト云傳タリ。但是ヨリ前都築山城入道看俊ト云  
 者貞和元年ノ比所司代タル由太平記  
 三宅菰野謀叛ノ卷ニ見エタリ。○塙政所ハ天正五年。上河存  
 保一存男塙津ニ在テ。泉河ニ州ノ成敗ヲ  
 孫六郎孫六郎司シ。是ヲ世ニ政所ト云ケルヨリ起レリ  
 旗本 公方家直參ノ諸士ヲ云。幕下。麾  
 下ノ群ニ搥レリ

叢林

門迹セキ 法親主ノ居ヲト給フ寺院ヲ云リ  
 又ハ門主共申ス。寛平法皇。仁和寺ニ  
 宸居ヲ構サセ給シヨリ起レリ。御門  
 ノ迹ト云美也トソ後世。官門迹。拱家  
 門迹。公方門迹。清華門迹ナド、次  
 弟シテ其差別アリ。所謂ノ仁和寺  
 洛西大内山 大覺寺 葛野郡 勸修寺 宇治郡  
 世云御室 嵯峨 南山科



聖護院 東山、足崎、本山 三審院 下醍醐号菩提寺、當山修驗者

檢件八密宗ニテ戒騰次第。東寺ノ長者

ニ補セラル。但近世院家エ讓附ト云

本山方是ヲ熊野山伏ト云。彼行者熊野ヨリ大峯

ヲ攀テ。吉野エ出ラレ遺流也。順入峯是ナリ。當

山ハ修驗道中絶シテ。醍醐ノ聖審、吉野ヨリ

逆ニ熊野エ出ラレヨリ起レリ。逆入峯是ナリ

常修院 北山、大原世云掘井殿。往古音蓮院 郡下粟田始 鳥部山、藤号 妙法院 曼珠院

号十樂院 新日吉門主 世云竹門主。往古北山ノ後、尊、重護法院 山科

内今在北山、丁乘寺村

毘沙輪主寺 野州、日光山 門堂 世云輪門主 件八台宗此内常。

青妙ノ三門主。戒騰次第交代ニ比、殿山

ノ座ニ王ヲ、兼ラル。曼珠院。輪王寺モ補セ

ラルノ例也。○照高院 白川 四滿院 三井

實相院 岩倉 件八台宗ニテ。園城寺ノ長

吏ヲ。三ヶ年宛交代ニ勤ラル。○隨心院

小野号 密宗。東大寺ノ寺務也。○一乘院

醍醐寺 大乘院。件八南都ノ兩門主トテ。法相宗

ヲ兼テ。貞福寺ノ法務ヲ交代ニ勤ツラル  
 ○知恩院ナラシ東淨土宗也。方丈ハ閑東檀ダン  
 林ノ中。戒臘次第是ニ補セラル。本願寺  
 六條六條東ヲ御裏ト称ス。光佐上人ノ息光  
 東西東西壽ヲ始トス。西ヲ御表ト称ス。光壽ノ  
 弟。光昭ヲ始トス。共ニ准清華大僧正  
 ニ至ル。貞正寺。理性院モ。並ニ本願寺ノ  
 慶流ニシテ。正僧正至ル。右ノ内官門迹

ハ四品ヨリ。叙セラレ一品ニテ至リ給フ。  
 故ニ僧正マテヲ召仕ル、夏ナリ。撰家清  
 華ノ門迹ハ。其身大僧正ヲ極官トセ  
 ラル、故ニ。法印ニテヲ仕ハル、トゾ  
 法親主 王子ノ落飾有テ。親門ニ入給ノ  
 後。親主宣下アルノ号也。康和元年正  
 月。仁和寺宮覺行ヲ始トス。續世繼ニ  
 見エタリ

入室ウラシ 宮方及攝清ノ公達ウダチ。門迹カドジエ本院ノ

夏ナツヲ云

護持僧ゴチソウ 天子ノ御祈禱ミタガヒ執行ノ門主ガ云

直居僧ナカヨソ 河海抄カウサイ云内裏ノ二間ニ候テ終

夜加持ヨカチニイル僧也云云

座主ザス 貫首クワンシュ共云リ。比叡山ヒトイ延曆寺ノ統領トウリョウ

ヲ云。座主ノ夏ハ秋アキ氏要覽ニ見エタリ

長者チヤウシヤ 東寺統領ノ僧ヲ云云

長吏チヤウシ 園城寺エンジョウジ。勸修寺クンシュウジノ司シヲ云

法務ホウム 興福寺キョウフクジノ統領トウリョウニ論ロン。法相ホウサウノ長也

檢校ケンギョウ 高野山タカノヤマ金剛峯寺コンガトウボウジノ統領トウリョウヲ云

院主エンシュ 播州ハクシュウ書寫田シヤウシヤ教寺キョウジノ住持ジュウヂヲ云

寺務ジモツ 諸大寺シヨウダイジノ統領トウリョウノ通称ツウシヨウナリ

國師クニシ 天子ニ法悟ホウゴヲ傳奉ル僧。此号コノナリヲ賜タマフフ

國王ノ師德シトクト云ノ羨也。祖庭ソテイ夏苑ゲイエンニ見エタリ。

本朝ニテモ室町家以來多ク例アリ。此外

禪家ノ和尚。琵琶法師ノ檢校。勾當ノ類。皆京  
 都將軍家ヨリ起レリ。今按後醍醐ノ朝。明石檢校  
 エタリ。彼ハ如一檢校カ法眷也トゾ。然レハ又上人ノ号。  
 檢校ノ号ハ鎌倉將軍家ノ末ヨリ起レルニヤ。  
 正權ノ差別アリ。長老阿闍梨ナドノ類ハ。  
 官職ニアラス。位ノ相當モナシ。年齡德行ノ叢稱トシ  
 公帖。五山臨濟ノ僧。官位ニ昇ル時。公方  
 家ノ許狀ナリ。首座以上ニ授ラル。是又  
 室町家以來ノ例也。

遷化 諸門迹以下。出世ノ僧ノ死去ヲ云。  
 釈氏要覽云。釈氏死。謂涅槃。四寂滅。  
 度。遷化。願世皆一也云云。  
 院家 門迹ノ下ニ屬テ規模アル寺ナリ。  
 譬ハ若王寺。勝仙院ハ聖護院ノ院家。  
 日嚴院ハ妙法院ノ院家。等ノ類ナリ。  
 畢竟門迹ノ隱居所ト云ノ義ナリ。  
 出世 消僧又ハ山伏ナドノ中ニテモ。年。蔭

アルヲ云

坊官 門迹方ノ家司ナリ。魚肉ヲ食シ。妻帯。剃髮ノ者也。本ハ東官方ヨリ出タル名ナリ。春官坊ノ官人ト云ノ義ナリトシ侍法師 有髮ニシテ。普通ノ侍ヲ云。凡門迹方ノ候人御禮ノ列ハ。院家。出世。坊官。侍法師。衆徒ト次第スルナリ

女官

御息所 東宮親王ノ御妻ヲ云。近代ハ東御方。南御方ナド云リ

北政所 親王家。関白家ノ妻ヲ云。但宜下ヲ蒙テ称ゼラルノ号也

大廳 拱家ノ母堂ヲ云

小廳 拱家ノ妻ヲ云

御臺盤所 公方家。大臣。太將ノ妻ヲ云

北御方 簾中共云リ。公卿ノ妻ヲ云。當時

清華家。及公方家ノ連枝方。妻ヲ。押

ナベテ云ル

女王ニヨロク 親主ノ女メヲ云。但天子御ミコ孫ミマゴマテ

女王ト称ス。五世ニ追ツグテハ。命婦メウブ。官人ノ列レツニ

入イルト云

官女キョウメ 官女。女官。皆以テ禁中奉公ノ婦女

ヲ云

勾當内侍カウドウノウシ 内侍ノウシ掌ヲ四人アリ。尚侍オウシ相サウ當ドウ從ジュウ三位

ヲ長官トシ。典侍テンシ相サウ當ドウ從ジュウ四位

侍シ相サウ當ドウ從ジュウ五位

ヲ判官トス。其中ニテ第一ダイイチ上ジョウ廊ドウ

ノ内書。國字クニジ文ブンヲ以テ。此内侍ニ宛オウラル。

内侍是ヲ奏達シ。則勅命ノ旨オウシヲ奉テ

國字ノ文書ヲ整トシ傳ツク奏ソウニ傳ツクフ。女房

奉書ト云是ナリ

上ジョウ臈ラウ 二位。三位ニ叙スル典侍テンシヲ云。種姓シュウセイ

ノ甲<sup>カ</sup>ニ因<sup>ユ</sup>ストイヘ<sup>ル</sup>。大<sup>カ</sup>寮<sup>カ</sup>大臣<sup>カ</sup>家<sup>カ</sup>ノ息<sup>カ</sup>女<sup>カ</sup>。  
或<sup>カ</sup>ハ孫<sup>カ</sup>女<sup>カ</sup>ナド也。此<sup>カ</sup>次<sup>カ</sup>ヲ小<sup>カ</sup>上<sup>カ</sup>薦<sup>カ</sup>ト云。  
是<sup>カ</sup>モ公<sup>カ</sup>卿<sup>カ</sup>ノ女<sup>カ</sup>ナリ。中<sup>カ</sup>薦<sup>カ</sup>ハ諸<sup>カ</sup>大夫<sup>カ</sup>ノ  
女<sup>カ</sup>。下<sup>カ</sup>薦<sup>カ</sup>ハ地<sup>カ</sup>下<sup>カ</sup>ノ侍<sup>カ</sup>。或<sup>カ</sup>ハ加<sup>カ</sup>茂<sup>カ</sup>ハ幡<sup>カ</sup>ノ  
社<sup>カ</sup>司<sup>カ</sup>等<sup>カ</sup>ノ女<sup>カ</sup>ト云

更衣<sup>カ</sup> 天子<sup>カ</sup>御<sup>カ</sup>衣<sup>カ</sup>召<sup>カ</sup>更<sup>カ</sup>ノ所<sup>カ</sup>ヲ掌<sup>カ</sup>ル上<sup>カ</sup>薦<sup>カ</sup>  
ヲ云。多<sup>カ</sup>ハ女<sup>カ</sup>御<sup>カ</sup>ニ轉<sup>カ</sup>ス。故<sup>カ</sup>ニ然<sup>カ</sup>ルヘキ上<sup>カ</sup>  
達<sup>カ</sup>部<sup>カ</sup>ノ女<sup>カ</sup>ナド。其<sup>カ</sup>選<sup>カ</sup>ニ當<sup>カ</sup>ルト云。又

更衣<sup>カ</sup>ノ文字<sup>カ</sup>ハ漢<sup>カ</sup>書<sup>カ</sup>ニ出<sup>カ</sup>タリ。猶<sup>カ</sup>河<sup>カ</sup>沿<sup>カ</sup>ト  
ニ委<sup>カ</sup>

御<sup>カ</sup>匣<sup>カ</sup> 常<sup>カ</sup>寧<sup>カ</sup>殿<sup>カ</sup>ノ北<sup>カ</sup>。貞<sup>カ</sup>觀<sup>カ</sup>殿<sup>カ</sup>ノ中<sup>カ</sup>ニ。御<sup>カ</sup>匣<sup>カ</sup>  
殿<sup>カ</sup>ト云アリ。内<sup>カ</sup>裁<sup>カ</sup>寮<sup>カ</sup>ノ外<sup>カ</sup>ノ御<sup>カ</sup>服<sup>カ</sup>裁<sup>カ</sup>縫<sup>カ</sup>所<sup>カ</sup>  
ナリ。是<sup>カ</sup>ヲ掌<sup>カ</sup>ル上<sup>カ</sup>薦<sup>カ</sup>ヲ則<sup>カ</sup>御<sup>カ</sup>匣<sup>カ</sup>ト云  
宣<sup>カ</sup>旨<sup>カ</sup> 院<sup>カ</sup>御<sup>カ</sup>所<sup>カ</sup>ノ雜<sup>カ</sup>支<sup>カ</sup>執<sup>カ</sup>次<sup>カ</sup>ノ女<sup>カ</sup>官<sup>カ</sup>ヲ云  
命<sup>カ</sup>婦<sup>カ</sup> 五位<sup>カ</sup>以上<sup>カ</sup>ニ叙<sup>カ</sup>スル官<sup>カ</sup>女<sup>カ</sup>ヲ云。但是<sup>カ</sup>  
内<sup>カ</sup>命<sup>カ</sup>婦<sup>カ</sup>ト号<sup>カ</sup>ス。故<sup>カ</sup>ニ五位<sup>カ</sup>以上<sup>カ</sup>ノ妻<sup>カ</sup>ヲ外<sup>カ</sup>

命婦ト云○鞞負命婦ト云ハ。衛門ノ  
命婦ナリ。源氏物語ニ見エタリ。今世内  
侍ノ次ニ御下ト云アリ。其中ニ命婦。女  
藏人ナトアリ

女藏人 下臈ノ藏人ヲ云。上品ノ藏人ヲ  
ハ命婦ノ藏人ト云

節折藏人 節折ノ命婦共云リ。名越後  
ノ時。ト部家ヨリ竹ヲ獻ジ。此官女ニ傳

ヘ。天子ノ御身体ノ長ニクラベ。被ヲ勤ル  
夏ナリ。故ニ節折ト云

執翳 朝賀ノ時帳ヲ褰ル女房ヲ云  
采女 水司。膳司ノ被官ニシテ。天子御

配膳ノ女房ナリ。往古ハ諸國ヨリ郡  
縣ノ多少ニ應シ。義女ヲ選テ貢シケルト  
フ。日本紀廿五ニ見エタリ

得選 御厨子所ノ女房ナリ。采女ノ中



ヨリ選テ置ル、故ニ得、選ト云。即位節、會ナドノ時。天子ノ御理髮カイツク名ヒシモ勤トソ、乃自負共書リ。事ハ勾會ニ見エタリ。天子御膳方ノ女房ヲ云

女孺コメコメ 諸司ノ駈使ハセツカノ女房ナリ。都テ御所ミヤ

中ノ掃除。秉燭。指油等ノ夏ヲ勤ム。

太槩賀茂八幡ナドノ社人ノ女ナリ

東豎子 是ヲヒメ松共云リ。一産三子ノ

中ノ女ヲ用ラル、ノ例トソ。公ウツ袁根源ニ詳

也。〇凡三子ノ先蹤。續日本紀ニ。文武帝

四年十一月。和州葛上郡一産二男一女云

類聚國史ニ大同二年三月。相州愛甲郡

人。國吉ト云ル者ノ女。一産三子云。東鑑

ニモ二位禪尼政子治世ノ時。鎌倉カミクラニテ

一産三子アリ。皆以テ官府ヨリ俸禄ホウリョクヲ

賜ノ由見エタリ。本草經目五十二ニモ。

人生ウムハ三子ヲ主ル太平ヲ云云

服器

冠カシムリ

天子ハ透額スキダシヲ用ラル。暑シユ天ニ六半額ハナリ。公卿モ十五歳ニテハ透額ハ十ナリ。六歳以後。厚額アツヲ用。透額ハ羅ウラニテ張ハ額ノ透ス如ク拵ユラタル者也。都ステ冠ハ束ツ帶タイノ時著ス之。衣冠イカンノ時ハ烏帽子エボナリ。又冠ハ髪カミヲ包ツム者ヲ巾子ユビト云。

巾子ノ後ウラニ立ル者ヲ臚ラト云。臚ノ後ニ垂タルル者ヲ纓チト云。兩ノ耳ミヲ掩フ者ヲ綏フキカケト云。綏ヲ貫ツク者ヲ串クシト云。

卷ケニ纓チ 大將以下。五位以上。ちキウ箭セヲ帶スル人。纓チヲ卷ミナリ。又拍カバ夾ハサミト云。夏アリ。卷ケ纓チトハ不フ空ソウカラ。

烏帽子エボシ 頭ノ上左エ折返マヲ左折マト云。侍サマ從ト以上著ス。右ミ折返マヲ右折マト云。五

位以上著ス。今世侍從以上ハ糸緒ヲ以テ結ヒ。四品以下ハ紙緒ヲ用フ

御衣ギヨ 天子ノ御裝束セウゾクヲ云。ヲホンゾト訓

吳服ゴフク 天子及公方家ノ御衣服ヲ云

衮冕コン 十二章シヤウトテ。即位朝賀ナドニ天子

ノ召ル、御衣イ裳シキマノ織物オリナリ。所謂ヒ日。

月ツキ。晨シニ。山ヤマ。龍リウ。華カ。夷イ。宗ソウ。彝イ。藻ソ。火カ。粉フ。

米メ。黼ホ。黻フ。云云シニ。晨シニハ星ホシナリ。華カ夷イハ雉キス子

ナリ。五彩サイヲ備ルナリ。禽トリナル故用之。尚書注

ニ見エタリ。宗彝ソウイハ本名裸ヌ然ゼント云。仁

獸シユニレテ孝慈コジアリ。本ホ草網目クサコノメニ云狀如

後サトル。白面黒頰シロオモテクニ。多髯ヒゲ而毛彩カシラ斑爛ハシラ。尾長

干身シカラシ其末有岐マタ。兩則以岐塞フサグ耳ミミヲ云云

黼ホハ斧ノ象カサチ。十字ニ則ノリ。陰陽合レテ

全キノ美ナリ。五車イ勻ニク瑞ニク云。裳シキマ繡ヌスハ斧ノ形

取ル其威イ断ツ也。黻フハ。説文ニク云。黒ノ与ノ青

ト

相次文也。周禮注云取臣民背惡向善亦取君臣有合離之義。去就之理云云。○又衮龍ト云ハ降龍ノ象。卷龍ノ事ヲ斥リ。毛詩國風ニ見エタリ

禮服 即位太嘗會朝賀ナトノ時天子ノ召ル、御服ヲ云。諸臣ニ於テモ羨全シ。躬 天子神夏奉幣ナドニ召ル、御衣ヲ云。白キ平絹ナリ。夏ハ生衣。冬ハ練

衣ヲ用ラルト云云

袍 天子ノ御上服。麤塵袍ヲ。青色也。

山鳩色トモ云リ。常ニハ黃櫨漆ヲ召ルルナリ。御紋ハ桐。竹。鳳凰ト云云。○仙洞ノ

袍ヲ赤色ト云。○儲君以下。親王ノ袍ヲ黃衣ト云。淺黃色ナリ。○雲立漏

ト云ハ楨闕ノ袍ノ紋ナリ

綬 平緒ノ如ク組テ乳ノ下ヨリ結テ

垂ル者ナリ

魚キョ袋タイ 石ノ帶オビニ付ル者ナリ。公卿ハ金。四

品以下ハ銀ヲ用フ。夏ハ唐書イフ府フナ

ドニ見エタリ

裾キヨ トシラフ 是ヲ下シタガサ襲ウノ下ト云。近代長短ノ制

不定。太カ槩カ大臣ハ一丈四五尺。大納言ハ

一丈二三尺。参議ハ八尺。四位ハ七尺ト云。

横家。將軍家ナドハ。弓ニ掛テ持セラル

公卿ハ自身左ノ手ニ持。殿上人ハ石ノ

帶ニ懸ル夏トソ

表ウラ袴ハカマ 往古ハ是ヲ褶ヒラミト云。袴ハカマノ上ニ加ル

者ナリ

奴サレ袴ハカマ 指貫共書リ。束ツク帶オビノ時著シ之シ。自

縷イトノ袴ナリ。常ノ袴ノ如ニシテ。裾スジヲ

指スベ縫ミク、リタル者ナリ

禁キン色シキ 指貫ニ紋モンノ付タル者ナリ。衣冠ノ

時著之。殿上人ニテモ。大臣ノ子。或ハ孫ニテ  
勅免ノ上著用ト云云

直衣 禁色ヲ聽サレシ人著之。但羽林

家ハ殿上人ニテモ著之。規模ノ夏也

水干 紗ニテモ平絹ニテモ用之。大納言ニ

テハ内ニテ著之

長絹 公卿童躰ノ間著之

直垂 堂上方ノ著アルハ絹ナリ。地巾ハ布

ヲ用。傳云直垂ハ元武家ヨリ起レリ。

鹿服ヲ著ス時モ。是ヲ以テ掩ノ故ナリ。

古來軍將ハ赤地ノ錦ナドヲ用。諸士ハ

絹又ハ布ナドヲ以テ。家ノ紋ヲ標シ著

セシトツ

大紋 諸大夫著之。則布直垂ナリ。胸緒

系紐ヲ用。素襖袴ハ胸緒ニ革ヲ用。

是ヲ以テ差別トス

布衣ホ狩衣カリギヌナリ。今世衣紋アルヲ狩衣トシ無紋ヲ布衣ト云。武家ニ於テハ平侍ノ中規模アル吏役ノ者著之

退紅タイカウ 良家ノ下官著之

泊張ハクシヤウ 下賤ノ官人著之

開色カイシキ 裝束ノ張直ナラシ云

御劔ゴウケン 禁將ノ御太刀云

龍御旗リウゴヒ 天子ノ御旗云。翠華スイカト云モ。

御旗ノ異名也

鳳輦ホウレン 翠輦スイレン。瑞輿ヨウヨ。鸞輿ラン。玉輅ヨク。竜駕リウカ

竜輦リウレン。皆以テ天子御乗物ノ名ナリ。但シ

舉行アゲヲ曰輿ウ。輓行ヒキ曰輦レン云凡天子ハ

鳳輦ナリ。御車ヲ用ル夏ナシ。后官

官方ナドハ。只御車ト申ス夏トソ。副ヒト

連タメハ供奉ノ官女ノ乗ル車云。延喜

式ニ見エタリ。河海抄ニハ人給車共書リ

屬<sup>シヨク</sup>車<sup>ニヤ</sup>ト云モ全シ。貞<sup>ダク</sup>觀<sup>クン</sup>政<sup>セイ</sup>要<sup>ヨウ</sup>云<sup>ク</sup>也<sup>ニ</sup>鳥<sup>ニ</sup>輿<sup>ニ</sup>有<sup>ル</sup>  
前<sup>マ</sup>屬<sup>シヨク</sup>車<sup>ニヤ</sup>有<sup>ル</sup>後<sup>ウシ</sup>云<sup>ク</sup>。文<sup>ブン</sup>選<sup>セン</sup>注<sup>注</sup>云<sup>ク</sup>。屬<sup>シヨク</sup>車<sup>ニヤ</sup>天子<sup>ニ</sup>  
後<sup>ウシ</sup>車<sup>ニヤ</sup>也<sup>ニ</sup>。又<sup>マタ</sup>出<sup>デ</sup>シ<sup>キ</sup>衣<sup>イ</sup>ト云<sup>ハ</sup>。車<sup>ニヤ</sup>ノ<sup>ス</sup>簾<sup>スレ</sup>ノ<sup>シ</sup>下<sup>ニ</sup>  
ヨリ。女<sup>メ</sup>房<sup>フ</sup>衣<sup>イ</sup>ノ<sup>ス</sup>袖<sup>スエ</sup>ヲ<sup>シ</sup>出<sup>ス</sup>テ<sup>シ</sup>云<sup>フ</sup>

輦<sup>ヒン</sup>車<sup>ニヤ</sup> 輿<sup>コシ</sup>ニ<sup>シ</sup>輪<sup>リン</sup>ヲ<sup>シ</sup>掛<sup>ケ</sup>タル<sup>者</sup>也<sup>ニ</sup>。手<sup>テ</sup>シ<sup>テ</sup>輓<sup>ヒキ</sup>  
行<sup>ユク</sup>ナリ。三<sup>サン</sup>公<sup>コウ</sup>ト<sup>シ</sup>イ<sup>ヘ</sup>共<sup>ニ</sup>。勅<sup>チク</sup>許<sup>コ</sup>ヲ<sup>シ</sup>不<sup>レ</sup>蒙<sup>シ</sup>テ<sup>シ</sup>  
乘<sup>ル</sup>夏<sup>カ</sup>不<sup>レ</sup>叶<sup>ハ</sup>弔<sup>ニ</sup>ナリ。漢<sup>カン</sup>書<sup>ショ</sup>注<sup>注</sup>云<sup>ク</sup>天子<sup>ニ</sup>所<sup>ニ</sup>  
乘<sup>ル</sup>曰<sup>フ</sup>輦<sup>ヒン</sup>。又<sup>マタ</sup>云<sup>ク</sup>駕<sup>カ</sup>入<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>行<sup>ク</sup>曰<sup>フ</sup>輦<sup>ヒン</sup>

牛<sup>ウシ</sup>車<sup>ニヤ</sup> 王子<sup>オウシ</sup>。公<sup>コウ</sup>方<sup>ホウ</sup>家<sup>カ</sup>ナド。御<sup>ミ</sup>免<sup>メン</sup>ノ<sup>シ</sup>宣<sup>ノ</sup>下<sup>ニ</sup>有<sup>ル</sup>テ  
是<sup>コト</sup>ヲ<sup>シ</sup>用<sup>ユ</sup>ラル。大<sup>ダイ</sup>内<sup>ナイ</sup>中<sup>チュウ</sup>御<sup>ミ</sup>門<sup>メン</sup>際<sup>サヘ</sup>ニ<sup>テ</sup>。乘<sup>ル</sup>給<sup>ケル</sup>  
フ夏<sup>カ</sup>ト<sup>ソ</sup>

龍<sup>リウ</sup>頭<sup>トウ</sup>鶴<sup>カク</sup>首<sup>シユ</sup> 天子<sup>テンシ</sup>ノ<sup>シ</sup>御<sup>ミ</sup>船<sup>セン</sup>ヲ<sup>シ</sup>云<sup>フ</sup>。鶴<sup>カク</sup>ハ<sup>ニ</sup>水<sup>スイ</sup>鳥<sup>ニヤ</sup>ノ  
名<sup>ナ</sup>ナリ。是<sup>コト</sup>ヲ<sup>シ</sup>船<sup>セン</sup>ノ<sup>シ</sup>頭<sup>カウ</sup>ニ<sup>シ</sup>畫<sup>エ</sup>ク。龍<sup>リウ</sup>ハ<sup>ニ</sup>元<sup>ゲン</sup>ヨリ  
水<sup>スイ</sup>ヲ<sup>シ</sup>得<sup>ル</sup>。鶴<sup>カク</sup>ハ<sup>ニ</sup>風<sup>フウ</sup>ヲ<sup>シ</sup>受<sup>ケ</sup>ル<sup>者</sup>ナル<sup>ユ</sup>ヘ。是<sup>コト</sup>ヲ<sup>シ</sup>  
象<sup>ゾウ</sup>テ。水<sup>スイ</sup>上<sup>ジョウ</sup>ノ<sup>シ</sup>難<sup>ナン</sup>ヲ<sup>シ</sup>避<sup>サク</sup>ル<sup>ノ</sup>弔<sup>ニ</sup>ナリ。淮<sup>クワン</sup>南<sup>ナン</sup>  
子<sup>シ</sup>ニ<sup>シ</sup>見<sup>ル</sup>エ<sup>タ</sup>リ



鳳<sup>ホウ</sup>身<sup>セキ</sup> 天子ノ御<sup>ミ</sup>省<sup>クツ</sup>ヲ云

驛<sup>エキ</sup>路<sup>ロ</sup>鈴<sup>スズ</sup> 勅<sup>ウチ</sup>命<sup>タマヒ</sup>ヲ奉<sup>タテマツ</sup>テ遠國ニ向<sup>ムク</sup>フ者、鈴<sup>スズ</sup>

ヲ授<sup>サヅケ</sup>ラル。驛<sup>エキ</sup>路<sup>ロ</sup>ニニテ。是ヲ振<sup>フリ</sup>鳴<sup>ネ</sup>シテ

支<sup>シ</sup>證<sup>シヤウ</sup>トス。軍將ニ節<sup>セツ</sup>ヲ賜ニ義<sup>ギ</sup>全<sup>ケン</sup>シ。堀川

院、百首ニ。ムニヤヅタヒノ鈴ト讀<sup>ヨミ</sup>ル是ナリ。

和哥色葉云官使ノ行テ宿ル處ヲ驛路

ト云。官ヨリ鈴ヲ賜テ。其ヲ全<sup>ケン</sup>ニシテ。

驛<sup>エキ</sup>ニ著<sup>ツク</sup>毎ニ。振<sup>フリ</sup>鳴<sup>ネ</sup>シテ宿ルナリ。國王ノ

七、鈴ヲ以テ。七道ニ遣<sup>ツカ</sup>スニハ。官使ニ一<sup>ツ</sup>完<sup>カン</sup>賜ル也トアリ

玉<sup>ギョウ</sup>宸<sup>シ</sup> 天子御座ノ後ニ立ル屏風ヲ云。歩<sup>ツ</sup>

障<sup>サテ</sup>ノ如キ者ナリ。文選注云、宸屏風也

天子所居後有屏風云云

宮本 天子ノ御書籍ヲ云

宿紙 水雲紙共云リ。淡墨色ノ料紙是

ナリ。往古堂上家。艷書以下ノ反故ヲ

以テ。北野ノ南。紙屋川又号仁ニテ渡セラ  
レシニ起レリトソ。故ニ是ヲ紙屋紙屋共云リ  
檀紙萬葉ニ陸奥ノ檀ノ紙ト讀ル是ナ  
リ。在古陸奥ヨリ檀ノ皮ヲ以テ。渡スキ出せ  
シ故ノ名ナリトソ。河海抄ニ見エタリ。大  
高。中高。小高ノ制アリ。俗ニハ是ヲ引  
合ト云。又王羲之カ所用蚕蚕紙モ此  
紙ニヤト云。夏古文諺解ニ出タリ

色紙中華ニ所謂彩牋ナリ。祖庭夏苑  
云。以色加紙曰牋。又唐ノ元和年中元稹  
十色ノ彩牋ヲ造シ夏。博物志ニ見エタリ  
短册傳云頓阿法師修行ノ次テ。不破関  
ニ到テ。詠スル處ノ和哥ヲ。関屋ノ庇庇  
板ニ記シテ。冷泉爲世卿工贈ケルヨリ  
短尺ノ制起レリ。然レバ短尺忠度ナド  
申樂家ニ謂モ諺レリ。葉室家或云時長  
或云時房

撰ノ盛衰ノ記ニモ。箴ニ付ラレシ文ヲ見レ  
バト記サル。證トスベシト云云。今、按江家次  
弟ニ既ニ短冊ノ字出タリ。往古ヨリノ  
制ト見エタリ。猶可尋之

